

01 ネット時代の
成功要因を探る

**インスタ映えで人気復活した
あの商品**

▶ フィルムカメラが見直されている。フィルムで撮った写真は色合いが独特で、SNSなどに人と違った写真を投稿したいと望むユーザーにとって大いに魅力的だ。

そのため軽くて簡単に写せるレンズ付きフィルムが売れている。3万個限定で発売したプレミアムキットは売上が好調で出荷が完了した。

このレンズ付きフィルムで撮影した写真がInstagramに投稿されている。個性的な色合いを生かすために、写真をデータにしてスマホに取り込み、アプリなどで加工せず投稿する人も多い。

▶ おじさんが主な購買層であるカップ酒が、若い女性の間で人気になっている。

カップの透明部分にシールを貼って、飲む姿をスマホで写すとフォトブックスを使ったような写真が撮れる。口ひげのシールをカップの上の方に貼って飲むと、付け髭のようだ。アヒルのくちばしのシールを貼ると、飲むだけでアヒル口になる。その画像が面白くてインスタ映えすると好評だ。

初めてカップ酒を飲んで「意外と飲みやすい」と思う女性も多く、新たな顧客拡大に繋がりそうだ。

02 この店に学べ!

**何が出るかわからない
運ませの人気キャンペーン**

▶ レンタルDVD店で、ジャケットやあらすじなどに惹かれてレンタルする「ジャケ借り」。それとは真逆の「NOTジャケ借り」キャンペーンが大手ビデオレンタル店で行われた。

棚に並ぶDVDのパッケージには作品名、あらすじなどはなく、短いレビューが大きく書かれているだけ。それだけを頼りに作品を選ぶ。

Twitterでは「これは借りたくなる」といった好意的な意見が多数寄せられた。

作品は旧作映画から約60本を厳選。レジで作品名を教えてくださいと観たことのある作品をまた借りるということは避けられる。

▶ 昨年8月5日から31日まで、兵庫県・丹波篠山の高速道路サービスエリアの食堂で、ガチャを回して出た食券でメニューが決まるという試みが行われた。題して「ガチャめし」。

1回500円で、メニューはカツカレー、チャーシュー麺など16種類。但馬牛丼(1,200円)、但馬牛うどん・そばセット(2,100円)などの高級料理もある。一番安いメニューでも600円相当だから、利用客は損をしない。

客が注文を考える時間をなくして券売機の混雑解消のために考えられた企画だが、1日最高で約2,000人が利用した。



Check! 進化するプロモーション手法に
要チェック! 必要な基礎知識

**ネット検索で上位表示され
自社サイトへ導くSEO**

第3回 ネット検索の仕組みに合わせた方法(前編)

GoogleやYahoo!などの検索サイトで検索結果の上位に表示されるとクリックされやすい。この特性を利用して、サーチエンジンから自社サイトへ誘導してPRをするマーケティング手法がSEO(Search Engine Optimization)である。

まずは基本的なことから

検索サイトの仕組みを簡単に説明すると、サーチエンジンではまずネットをリンクから辿ってWebページを巡回し、その情報を集める(クロール)。その情報はサーバーにインデックスして記録される。そして、ユーザーの検索に対してWebページの情報を検索結果として順次表示する。

SEOにはネット上の分析ツールを利用する方法もある。しかし、その前にサイトの設定やコンテンツ作成での注意点など基本的なことから始めよう。

オリジナルのテキストが重要

GoogleがクロールしてWebページの情報を取り込む際、テキスト情報を重視している。画像は表示に時間がかかる上に、SNSでシェアしにくいことが理由だ。そのため、Webページに画像も必要だが、検索されやすくするためにはテキストのコンテンツ情報も重要になる。

しかし、テキスト形式の情報なら何でもよく、別のサイトをコピーしたものでも良いということにはならない。

Googleのガイドラインでは、「他のサイトのコンテンツをコピーし、独自のコンテンツや付加価値を加えることなく転載しているサイト」や、語句の類義語への置き換えや、自動化された手法を使用して、若干の修正を加えて、他のサイトのコンテンツを転載したサイトなどは、無断複製されたコンテンツに当たると規定されている。

Googleの解析技術は進んでいて、他サイトのコピーや、コピーして少し語句を書き換えた程度のコンテンツは見破られるのだ。

また、転載でなくても、他のサイトのコンテンツと似たものも評価が低い。もっとも、類似のコンテンツを作るつもりはなくても、結果的に似てしまうこともある。その場合は、他には載っていない情報を含めることが必要だろう。

クロールの次はインデックスだが、サイトの設定によってインデックスされないこともある。この点も要注意だ。

次号に続く

注意:本文中の情報は2018年7月現在のものです。
参考文献:野澤洋介著『最強の効果を生み出す新しいSEOの教科書』
(技術評論社)